

科目名	救急救護医学演習Ⅱ			分野・必選別・ 単位数	専門科目	選択	2単位
担当教員	◎教授 小菅宇之 准教授 藤崎竜一					科目ナンバー	T5C104
課程	修士	配当年次	2年	配当学期	後期	授業方法	演習
授業の概要	<p>内因性・外因性の傷病者を中心に、病院前救急救護現場での傷病者観察・鑑別診断・救急救命処置の事例検討・討論を行い、「救急救護医学演習Ⅰ」での学修を基に症状・徴候、病態、救急救命処置に関する病院前救急救護ケア関連図を策定し、かつ、医師が実施している診断学手法を病院前救急救護医学に導入した総合観察推論を実践的に学修する。これにより病院前救急救護医学の教育用学修プログラムを探求、病院前救急救護医学の教育指導者としての能力を涵養する。救急関連の症例報告を題材にディスカッションを行う。</p>						
授業の到達目標	<p>① 例題となる内因性・外因性の疾患について、救護ケア関連図の策定と説明ができる。 ② 例題となる内因性・外因性の疾患について、適切な教育実習用のシナリオの策定ができる。 ③ 例題となる内因性・外因性の疾患について、医師の診断学手法を病院前救急救護医学に導入した総合観察推論の実践とその説明ができる。</p>						
授業計画	回数	担当者		行動目標			
	1	小菅 宇之	教授	適切な症例報告の検索、ディスカッションに必要な資料の準備、プレゼンテーションの準備ができる。救護ケア関連図とシナリオ作成のための方法を説明できる。			
	2	小菅 宇之	教授	循環器系① 循環器系の疾患について適切な症例報告を用いて、救護ケア関連図の策定と教育実習のためのシナリオ策定と説明ができる。医師の診断学手法を病院前救急救護医学に導入した総合観察推論を実施し、説明ができる。			
	3	小菅 宇之	教授	循環器系② 循環器系の疾患について適切な症例報告を用いて、救護ケア関連図の策定と教育実習のためのシナリオ策定と説明ができる。医師の診断学手法を病院前救急救護医学に導入した総合観察推論を実施し、説明ができる。			
	4	小菅 宇之	教授	循環器系③ 循環器系の疾患について適切な症例報告を用いて、救護ケア関連図の策定と教育実習のためのシナリオ策定と説明ができる。医師の診断学手法を病院前救急救護医学に導入した総合観察推論を実施し、説明ができる。			
	5	小菅 宇之	教授	脳神経系① 脳神経系の疾患について適切な症例報告を用いて、救護ケア関連図の策定と教育実習のためのシナリオ策定と説明ができる。医師の診断学手法を病院前救急救護医学に導入した総合観察推論を実施し、説明ができる。			
	6	小菅 宇之	教授	脳神経系② 脳神経系の疾患について適切な症例報告を用いて、救護ケア関連図の策定と教育実習のためのシナリオ策定と説明ができる。医師の診断学手法を病院前救急救護医学に導入した総合観察推論を実施し、説明ができる。			
	7	小菅 宇之	教授	消化器系① 消化器系の疾患について適切な症例報告を用いて、救護ケア関連図の策定と教育実習のためのシナリオ策定と説明ができる。医師の診断学手法を病院前救急救護医学に導入した総合観察推論を実施し、説明ができる。			
	8	小菅 宇之	教授	消化器系② 消化器系の疾患について適切な症例報告を用いて、救護ケア関連図の策定と教育実習のためのシナリオ策定と説明ができる。医師の診断学手法を病院前救急救護医学に導入した総合観察推論を実施し、説明ができる。			
	9	小菅 宇之	教授	呼吸器系① 呼吸器系の疾患について適切な症例報告を用いて、救護ケア関連図の策定と教育実習のためのシナリオ策定と説明ができる。医師の診断学手法を病院前救急救護医学に導入した総合観察推論を実施し、説明ができる。			
	10	小菅 宇之	教授	呼吸器系② 呼吸器系の疾患について適切な症例報告を用いて、救護ケア関連図の策定と教育実習のためのシナリオ策定と説明ができる。医師の診断学手法を病院前救急救護医学に導入した総合観察推論を実施し、説明ができる。			
	11	小菅 宇之	教授	災害の外傷 災害の外傷について適切な症例報告を用いて、救護ケア関連図の策定と教育実習のためのシナリオ策定と説明ができる。医師の診断学手法を病院前救急救護医学に導入した総合観察推論を実施し、説明ができる。			
	12	藤崎 竜一	准教授	感染症 感染症について適切な症例報告を用いて、救護ケア関連図の策定と教育実習のためのシナリオ策定と説明ができる。医師の診断学手法を病院前救急救護医学に導入した総合観察推論を実施し、説明ができる。			
13	藤崎 竜一	准教授	内分泌系 内分泌系の疾患について適切な症例報告を用いて、救護ケア関連図の策定と教育実習のためのシナリオ策定と説明ができる。医師の診断学手法を病院前救急救護医学に導入した総合観察推論を実施し、説明ができる。				

	回数	担当者	行動目標
授業計画	14	小菅 宇之 教授	脊柱・骨盤・四肢 環境障害が原因となる疾患について適切な症例報告を用いて、救護ケア関連図の策定と教育実習のためのシナリオ策定と説明ができる。医師の診断学手法を病院前救急救護医学に導入した総合観察推論を実施し、説明ができる。
	15	小菅 宇之 教授	環境障害 環境障害が原因となる疾患について適切な症例報告を用いて、救護ケア関連図の策定と教育実習のためのシナリオ策定と説明ができる。医師の診断学手法を病院前救急救護医学に導入した総合観察推論を実施し、説明ができる。
事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	【事前学修】	毎回の症例報告(自ら検索、もしくは指定)を基に救護ケア関連図・シナリオを策定する。シナリオ解説のために必要な資料の準備を行う。	
	【事後学修】	救護ケア関連図についてディスカッションした内容をまとめる。	
	【必要時間】	当該期間に30時間以上の予復習が必要。	
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第9版上下巻 へるす出版 救急用語辞典 ぱーそん書房、Electrocardiography A to Z: 心電図のリズムと波を見極める 日本医師会		
参考書	ハリソン内科学 MEDIS, 標準救命救急医学 医学書院、 0からの脳神経外科学 ぱーそん書房、心電図 A to Z 心電図で見方が変わる急性冠症候群 文光堂		
成績評価の方法および基準	各講義毎に、プレゼンテーションと救護ケア関連図とシナリオにより理解度を確認し、これらの提出を評価の80%とする。さらに成績評価とし疾患に対する口頭試問を行い評価の20%とする。		
その他履修上の注意事項	プレゼンテーション、ディスカッションを中心とするので、授業中の積極的な発言が必要である。事前にJPTECの受講、「救急救護医学特論Ⅰ、Ⅱ」を履修済みであることが望ましい。試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。カリキュラムマップのDP4が、この科目と本専攻の学位授与方針との関連を示している。		